

モルモンとその教え

だい49しょう



イエス・キリストがニーファイ人をおとすれられてから何年もたつと、教会をはなれ、みずからレーマン人と名のるものたちが出てきました。(4ニーファイ1：20)



そして、ついには、ニーファイ人もレーマン人も、ほとんどのたみが、ひじょうにわるくなりました。(4ニーファイ1：45)



正しい人アマロンは、しんせいなきろくをもっていました。せいいいはアマロンに、そのきろくをかくして、まもるようにとおつけになりました。(4ニーファイ1：48-49)



アマロンは、10才の少年であったモルモンがしんらいできる子だと知って、きろくをかくしてあるばしょを教えました。(モルモン1：2-3)



モルモンは24才になったら、ニーファイのはんをとり出して、それにたみのことを書くように言われました。(モルモン1：3-4)



モルモンが11才になった時、ニーファイ人とレーマン人の間にたたかいがおこりました。ニーファイ人はレーマン人をうちまかして、ふたたびへいわになりました。(モルモン1：6，8—12)



しかし、人びとがひじょうにわるくなったので、主は3人のでしをつれさしてしまわれました。きせきといやしはやみ、せいれいはもう人びとをみちびかれませんでした。(モルモン1：13—14)



モルモンは15才の時、イエス・キリストのおとずれを受けました。そして、すくいぬしとそのいつくしみについて、さらに学びました。(モルモン1：15)



モルモンはたみに教えをとこうとしましたが、イエスからきんじられました。たみはあくじを行ない、たみの心がふたたびかたくなったからです。(モルモン1：16—17)



ふたたびせんそうがはじまりました。モルモンはせが高く、たくましかったので、ニーファイのたみは、モルモンをぐんのしきかにえらびました。(モルモン2：1)



ニーファイ人とレーマン人のたたかいは、何十年もつづきました。そこでモルモンは、たみが自分たちのかぞくとかていをまもるためにたたかうように、力をつくしました。(モルモン2：23)



しかし、ニーファイ人はひじょうにわるくなっていたので、主はおたすけになりませんでした。(モルモン2：26)



モルモンは、ニーファイ人にむかって、くいあらためて、バプテスマをうけるならばすぐわれる、と言いました。しかし、たみは聞き入れませんでした。(モルモン3：2-3)



それどころか、自分たちの力をほこって、レーマン人をみなごろしにするとちかいました。そこでモルモンは、たみのあくじのために、しきかんとすることをことわりしました。(モルモン3：9-11)



たたかうたびにニーファイ人は、レーマン人にうちまかされるようになりました。モルモンはふたたび、ニーファイ人のぐんたいをひきいることにしました。(モルモン4：18；5：1)



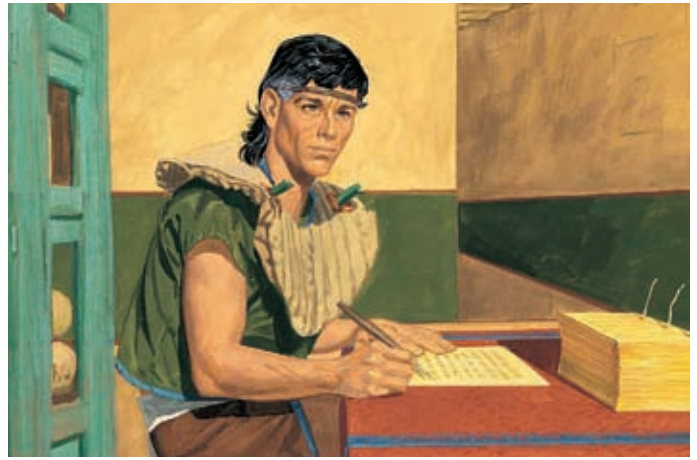
しかし、モルモンには、あくじを行うニーファイ人がたたかいにかかてないことが分かっていました。たみがくいあらためず、たすけをねがうこともしなかったからです。(モルモン5：2)



モルモンは、アマロンがかくしておいたおからすべてのきろくをとり出し、いつかこのきろくを読む人びとのために書きしるしました。(モルモン4：23；5：9、12)



モルモンのねがいは、ユダヤ人をはじめとしてすべての人が、イエス・キリストについて知り、くいあらためてバプテスマをうけ、ふくいんにしたがって生活し、しゅくふくをうけることでした。(モルモン5：14；7：8, 10)



みたまにうながされてモルモンは、キリストのらいいりのよげんがのっているニーファイのしょうはんを、モルモンのはんといっしょにしました。(モルモンのことば1：3-7)



モルモンは、たみをクモラの地にあつめました。たみはここで、ふたたびレーマン人とたたかうよういをしました。(モルモン6：4)



モルモンは、年をとりました。これがさいごのたたかいになることを知っていました。しんせいなきろくがレーマン人に見つかって、台なしにされてはこまります。(モルモン6：6)



モルモンは、モルモンのはんをむすこのモロナイにわたし、のこのりはんをクモラのおかにかくしました。(モルモン6：6)



レーマン人は、ニーファイ人をおそいました。そして、24人をおそいて、みなごろしにしました。モルモンは、けがをしました。(モルモン6：8-11)



モルモンは、さげびました。「あなたがたはひょううでを^{ひろ}広げてた^たってあなたがたをうけ入れようとしておられた、あのイエスをどうしてこぼんだのか。見よ、あなたがたはそのようにしなければ、たおれなかったであろうに。」(モルモン6：16-18)



モルモンは、ニーファイ人にしんりを^{おし}教えようとつとめ、イエス・キリストをしんじることがどれほど大切かつたえしました。(モロナイ7：1, 33, 38)



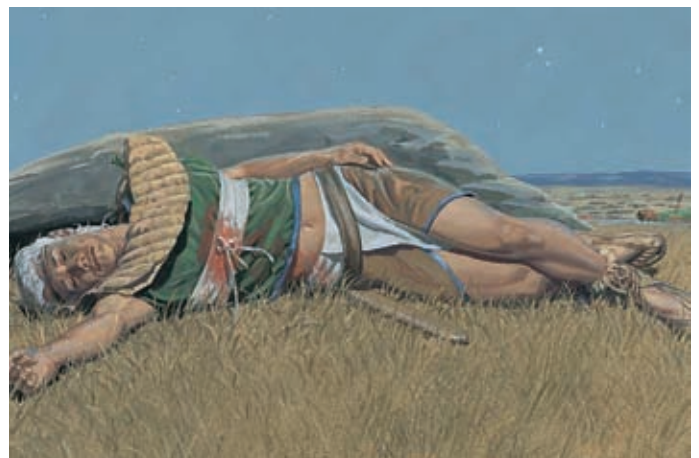
モルモンは、イエス・キリストのあがないによって、きぼうをもつように^{おし}教えました。また、じあい、つまりキリストのじゅんすいなあいをもたなければいけないとも教えました。(モロナイ7：40-41, 47)



モルモンは、同じようにニーファイ人に^{おし}ふくいんを教えた、むすこのモロナイにあてて^{おし}手紙を書きました。(モロナイ8：1-2)



モルモンは、ニーファイ人の^{おこな}ひどくわるい行いについて^か書きました。モロナイには、イエス・キリストに^{おこな}ちゅうじつでありなさいと^か書いています。(モロナイ9：1, 20, 25)



レーマン人は、モルモンたちニーファイ人^{おこな}ぜんいんをころしました。一人だけ^{ひとり}生きのこったモロナイは、^かきろくを書きおえました。(モルモン8：2-3)